

第1回横手市総合戦略有識者会議 会議録

日 時 令和8年7月8日（水） 午後2時55分から午後4時25分

場 所 横手市役所本庁舎2階第一会議室

出席者 【委員】※横手市総合戦略有識者会議委員名簿順

高階崇之委員、伊藤一隆委員、佐藤信行委員、柴田優子委員、
村田副市長

（欠席）高橋雅博委員、佐々木義和委員、竹村敬委員

【事務局】

小玉総務企画部長、大友経営企画課長、酒井経営企画課課長代理、
坂元経営企画課主査、森田商工観光部長、阿部商工労働課長

概 要

1. 開会

2. 副市長あいさつ

3. 委員紹介

委員ごとに自己紹介

4. 委員長選任

委員長：村田副市長

（横手市総合戦略有識者会議設置要綱第4条の規定による）

5. 議事

（1）有識者会議の役割等について

資料1をもとに事務局から説明。

※質問なし

（2）「地方創生に関する総合戦略」の概要について

資料2をもとに事務局から説明。

※質問なし

（3）第1期、第2期横手市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括について

資料3，4をもとに事務局から説明

～質疑応答～

委員長

説明内容は、各基本目標に対する指標の達成状況や取組内容であったが、第1期、第2期の総括としてどのように考えているか。

事務局

第1期、第2期ともに、少子化対策、人口減少という大きな目的に対しては、結果、成果という部分において足りなかった部分があると認識している。

特に、人口減少の最も大きな要因である出生数、社会減というところのポイントとなる部分では、出生数については減少が続いており、当然新型コロナウイルスの影響もあったものと思っている。社会減については、逆に新型コロナウイルスの影響によって、一時的に県外に転出しないという傾向が若干はみられたが、その後は元に戻ってしまっている現状がある。

そういった意味で、人口減少、少子化という大きな目的の部分については、結果として、我々が望んでいる結果にはならなかったというところが事務局としての捉え方である。

また、一方で、産業分野、特に農業やにぎわいの創出という部分については、様々なイベントを含め、横手市立体育館や生涯学習館A o - n a の建設といった取組を進めており、県内でも取り分けにぎわいを創出できているのではないかと自負している。

このような県南地域の拠点となる部分について、横手市立体育館については、まさに今稼働したばかりであるので、しっかりと賑わいを創出することにより、さらなる経済効果につなげることができればと考えている。

委員長

資料のとおり、出生数や社会減については、良い結果を生み出せていない。このような結果については、おそらく、当市に限らず地方都市全体がこのような方向に向いてしまっている。まして、人口減少については、世の中のトレンドが減少傾向となっており、一地方都市だけが、特別なことがない限り、増えるといったことは中々ないと思う。

とはいえ、K市のように大規模な工場が進出するといったような話があると人口の増加にはなるが、基本的なところでは筋が違うものである。

次の戦略は、このような現状を踏まえた上で、第1期、第2期において、産業分野については幸いにもひどい状態ではない結果で推移しているので、この部分を伸ばしていく施策をつくっていくことが必要だと考える。ある意味、当市にとっては得意な方向に行くのではないかと考えている。

冒頭説明のあった、第1期の指標である社会増減については、達成度がaとなっているものの、単純な人数の比較であり、人口そのものが減っているため、おのずと社会増減も減るという捉え方もある。

A委員

大学進学で、横手を離れた学生が、また横手に戻ってきて働く方がどれぐらいいるかは、統計等で把握しているか。

若者が魅力を感じ、横手を離れてもまた帰ってきてくれることが望ましいし、奨学金支援などの様々な応援体制が整っているのも、興味があり質問した。

また、住んでいる私たちが楽しいと思えるような、横手を拠点とした賑わいの創出は、本当にいろいろなところで見られ、成果が出ていると思うので、引き続き頑張っていたきたい。

学生が、一度横手を離れることは応援しているので、その後、戻ってくる際の魅力を感じるような応援体制がさらに広がれば良いと感じた。

事務局

大学生のリターン割合といった具体的な統計等はないが、大学生向けの就職説明会や小中学校の児童生徒向けの企業訪問、高校生向けの企業説明会を開催しているので、大学生に戻ってきてほしいという思いで事業は展開している。

我々としても戻ってきてもらいたい、また、横手出身でなくても横手で就職してもらいたいと思っているので、引き続き取組を進めていきたいと考えている。

事務局

資料3の8ページに、5歳刻みで人口の移動をグラフに表したものがある。正確な数として把握はしづらいと思うが、15～25歳の間で一旦転出が増え、その後徐々に戻ってくる方がいるといった状況を示すグラフとなっている。

事務局

横手管内の就職を希望する方のうち、県内に就職した方が73.4%という数字はある。

B委員

出生や婚姻という部分は、思いがあってもコントロールができない部分であると感じている。

一旦外に出て戻ってくるという話では、戻ってくるからには定住する、そして、そのためには働かなければならない。働く上で、魅力的な職場があるかどうかだと思っている。

前任の地域にあった県立大学でも、約1,200人のうち、残念なことに地元に残る方はごく少なく、その地域でも同じような問題があったと記憶している。

そのような問題を解決するためには、魅力ある職場をどのようにしてつくるか、魅力ある職場とは賃金なのか、労働環境なのかはわからないが、そのような点では、中々地方部では勝ち目がない。まして、中小企業が多く、解決できないことだと思うが、いかに良い人材を集めるかという話が企業からあるが、それも叶わない状況にあり、良い人材を奪い合っているという状態で、プラスの方向に向いていないのが現状である。

しかし、あきらめてもいられないと思っているので、人手でなくても済むところは機械等に任せ、とにかく企業を継続させていかなければならない。

C委員

農業分野に関しては、米の販売額だけは伸長しているように見えるが、実際の農業現場では、耕作面積自体の減少傾向は否めず、特に園芸分野が頭打ちで、生産者も減少している状況である。

雇用の部分では、当団体自体でも雇用の確保が、年々非常に厳しくなっている状況で、抱えている業務量に対する人員についても、ギリギリのラインでやっており、毎年数人新規で雇用しているが、途中でリタイアされる職員もいる。

この部分に関しては、当団体だけでなく、市内の中小企業も同じ状況だと思っており、雇用が確保できないと現在の事業がこの後、ままならなくなるという不安がある。

D委員

市に住み続けたいと思う市民の割合が70%と当時目標を設定した際の現状値の80%よりだいぶ下がっており、10%という割合は大きいと思う。

横手の土地を相続放棄する方がかなり増えており、相続したとしても、所有者は横手にいないという事案も増えており、横手の今後について不安を感じている。

市に住み続けたいと思う市民の割合を上げていく、住んでいる方の実感として満足感が得られるような取組があればいいのではないかと考える。

委員長

どのような方向から見ても厳しいというところはあるが、今まで動かせなかったような部分を動かす、例えば、駅前があれだけ変わってきていることを考えると、動かそうと思えば動くことがあるという状況にあるので、この後、どのようにしていくかという部分を次期戦略で組み立てていく必要があると思う。できないと言ってしまうとそこで終わりなので、できるかどうかやってみなければわからないといったような気持ちで、皆様からご意見をいただけるとありがたい。

(4) 横手市の現状と課題について

資料5をもとに事務局から説明

※質問なし

6. その他

事務局より、次回開催予定と日程調整のお願い、また、次回は次期総合戦略の方向性の確認をする旨連絡。その他、報酬振込口座の確認について連絡。

7. 閉会

以上